

目指す授業像（本学区では、共通してどんな授業を目指すのか）

視点1「学習意欲の向上」	視点2「言語活動の充実」
<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習課題がわかり、進んで学ぼうとしている。 ・授業でわかったことやできたことなどを振り返ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えと友達の考えの似ているところや違うところを聞こうとしている。 ・伝えたいことを考え、言葉を選んだり話したりしている。
【現時点での課題（授業者・学習者）】 <ul style="list-style-type: none"> ・端的な説明と子どもが中心となる授業構成 ・分かった、できたの具体的な振り返り 	【現時点での課題（授業者・学習者）】 <ul style="list-style-type: none"> ・算数用語を使って説明する力 ・友達の考えを聞く力

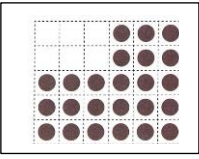
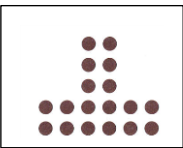

2 学年 算数科 単元指導計画

単元名 かけ算（2） （東京書籍2年）	日 時	令和4年10月26日（水）5時間目
	対象学級	小友小 2年（6名）
	授業者	講師 佐々木千聖
1 単元の目標 （何ができるようになるか）		
〔知識及び技能〕	〔思考力、判断力、表現力等〕	「学びに向かう力、人間性等」
○乗法九九について知り、乗法に関して成り立つ性質の理解を確実にするとともに乗法が用いられる場面を絵や図、言葉、式で表したり、乗法九九（6、7、8、9、1の段）を構成し、確実に唱えたりすることができる。（A（3）ア）	○数量の関係に着目し、乗法について成り立つ性質やきまりを用いて、乗法九九の構成の仕方を考え工夫し、表現できる。（A（3）ア）	○数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理や、乗法について成り立つ性質やきまりを用いることよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする。
2 単元で取り上げる「課題解決的な言語活動」 （何を通して育成するのか）		
（数学的活動：エ） ものの数の求め方を乗法を用いて解決できるように自分の考えを言葉、図、式で表し、説明する。		
3 単元の評価規準 （何が身に付いたか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○乗法が用いられる場合や乗法九九について知り、乗法の意味や乗法に関して成り立つ性質（乗数が1ずつ増えるときの積の増え方や交換法則）を理解し、乗法が用いられる場面を絵や図、言葉、式で表したり、乗法九九（5、2、3、4の段）を構成し、確実に唱えたりしている。	○数量の関係に着目し、累加の考えや乗数と積の関係などを基に、乗法九九の仕方を考え表現している。	○数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理や乗法のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。
4 「2つの視点」+αによる授業改善 （どのように学ぶか）		
視点1「学習意欲の向上」	視点2「言語活動の充実」	「リーダー学習」
① 導入時の場面において、学習する目的をもたせるために問題解決の手掛かりを予想させたり、ゴール問題を示したりする。 ② 学習を振り返る場面において、達成感・成就感を持たせるために、評価の観点に合った「評価問題」を解かせ、教師が採点し賞賛を与える。	① 学び合いの場面において、考えを整理するために、自分の考えを説明させる。 ② 学び合いの場面において、「同じ数のまとまり」が共通の考えであることに気づかせるために、様々な考えを聞き、話し合う。	① 言語活動での司会進行。

5 単元の指導と評価の計画 (全17時間)		(単元をどうデザインするか)		
時	目標	学習活動	おもな評価規準	用語
1	・6の段の九九の構成の仕方を理解する。	○6のだんの九九のつくりを考えよう。 ①6の段の九九の構成の仕方について考える。 ②累加や乗数と積の関係など既習の考えを活用して、6の段の九九を構成する。 ◎これまでに見つけたきまりをつかうと、6のだんの九九になる。	【態度】 ・乗法について成り立つ性質やきまりを用いて九九を構成しようとしている。	・6の段
2 ・ 3	・6の段の九九を確実に唱え、適用することができる。	○ 6×4 のこたえをもとめる方ほうを考えよう。 ①6の段の九九を唱え、カードなどを使って練習する。 ②6の段の九九を見直し、九九表やアレイ図などを基にして、交換法則や分配法則が成り立っていることを確認する。 ◎ 6×4 のこたえをもとめるときは、「① 4×6 」「②6を 2×4 と 4×4 に分けてたす。」と考えることもできる。 ○もんだいにとりくもう。 ①6の段の九九を用いて問題を解決する。	【思・判・表】 ・6の段の九九を見直すことを通して、乗法について成り立つ性質やきまりを考え、説明している。	・交換 ・分ける
4	・7の段の九九の構成の仕方を理解する。	○7のだんの九九のつくりを考えよう。 ①7の段の九九の構成の仕方について考える。 ②累加や積と乗数の関係に加え、交換法則や分配法則など既習の考えを活用して、7の段の九九を構成する。 ◎これまでに見つけたきまりをつかうと、7のだんの九九になる。	【態度】 ・乗法について成り立つ性質やきまりを用いて九九を構成しようとしている。	・7の段
5 ・ 6	・7の段の九九を確実に唱え、適用することができる	○7のだんの答えをもとめる方ほうを考えよう。 ①7の段の九九を唱え、カードなどを使って練習する。 ②7の段の九九を見直し、九九表やアレイ図などを基にして、交換法則や分配法則が成り立っていることを確認する。 ◎7のだんのこたえは、かけられる数とかける数を入れかえたり、7のだんを分けて考えたりしてできる。 ○もんだいにとりくもう。 ①7の段の九九を用いて問題を解決する。	【思・判・表】 ・7の段の九九を見直すことを通して、乗法について成り立つ性質やきまりを考え、説明している。	・かけられる数 ・かける数

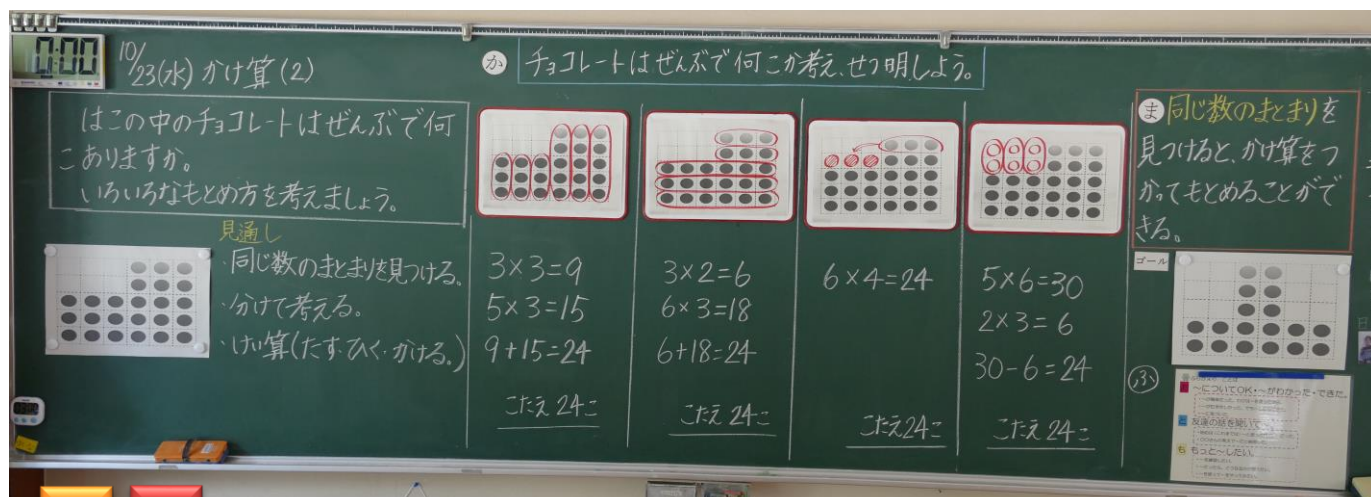
7	<ul style="list-style-type: none"> 8の段の九九の構成の仕方を考え、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○8のだんの九九のつくりを考えよう。 ①8の段の九九の構成の仕方について考える。 ②既習の性質やきまりを活用して、いろいろな方法で8の段の九九を構成する。 ◎これまでに見つけたいろいろなきまりをつかって、8のだんの九九をつくることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【思・判・表】 ・乗法について成り立つ性質やきまりを用いて、8の段の九九の構成の仕方を考え、説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・8の段
8	<ul style="list-style-type: none"> 8の段の九九を確実に唱え、適用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○8のだんの答えをもとめる方ほうを考えよう。 ①8の段の九九を唱えたり、カードを用いたりして練習する。 ②8の段の九九を用いて問題を解決する。 ◎8のだんのこたえをもとめるときは、かけられる数とかける数を入れかえたり、8のだんを分けて考えたりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【知・技】 ・8の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。 	
9	<ul style="list-style-type: none"> 9の段の九九の構成の仕方を考え、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○9のだんの九九のつくりを考えよう。 ①9の段の九九の構成の仕方について考える。 ②既習の性質やきまりを活用して、いろいろな方法で9の段の九九を構成する。 ◎これまでに見つけたいろいろなきまりをつかって、9のだんの九九をつくることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【思・判・表】 ・乗法について成り立つ性質やきまりを用いて、9の段の九九の構成の仕方を考え、説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・9の段
10	<ul style="list-style-type: none"> 9の段の九九を確実に唱え、適用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○9のだんの答えをもとめる方ほうを考えよう。 ①9の段の九九を唱えたり、カードを用いたりして練習する。 ②9の段の九九を用いて問題を解決する。 ◎9のだんのこたえをもとめるときは、かけられる数とかける数を入れかえたり、9のだんを分けて考えたりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【知・技】 ・9の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。 	
11	<ul style="list-style-type: none"> 1の段の九九を構成し、乗法の意味の理解を確実にする。 九九を、答えの大きい方から唱えたり、途中から唱えたり、交互に唱えたりする活動を通して、九九の習熟・定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1のだんの答えをもとめる方ほうを考えよう。 ①場面をとらえ、1×6の式からかけ算の意味を確かめる。 ②1の段の九九を唱える。 ③九九を、答えの大きい方から唱えたり、途中から唱えたり、交互に唱えたりする活動に取り組む。 ◎1のだんの九九にもこれまでに見つけたきまりがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 【知・技】 ・九九を確実に唱えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1の段
12	<ul style="list-style-type: none"> 九九表からきまりを見つける活動を通して、乗数と積の関係や、乗法の交換法則についての理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○かけ算のきまりをまとめよう。 ①九九表を見て、これまで九九の構成で用いた乗数と積の関係や、乗法の交換法則を確認する。 ②りくの吹き出しを読み、分配法則について調べる。 ◎①かける数が1ふえると、こたえはかけられる数だけふえる。 ②かけられる数とかける数を入れかえてもこたえは同じ。 	<ul style="list-style-type: none"> 【態度】 ・各段の九九の構成するときに用いた乗数と積の関係や、乗法の交換法則を、乗法の性質やきまりとしてまとめようとしている。 	

13	<ul style="list-style-type: none"> 乗法の性質のきまりを用いて、簡単な場合の2位数と1位数の乗法の答えの求め方を考え、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○2けたの九九をもとめよう。 ①九九表を基に、学習してきた性質のきまりを用いて、被除数が2位数のかけ算についての答えの求め方を考える。 ②かけ算のきまりをつかおうと、2けたの数の答えを求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【思・判・表】 乗数と積の関係や乗法の交換法則を用いて、簡単な場合の2位数と1位数の乗法の答えの求め方を考え、説明している。 	
14	<ul style="list-style-type: none"> 2 cmの3倍の長さを求めたり、図を見て基準量の何倍かを考えたりし、「倍」についての理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ばいについて考えよう。 ①2 cmの3倍の長さをかけ算を使って求める。 ・ア、イのテープの図を見て、イのテープの長さはおのテープの長さの何倍かを考える。 ②もとの数の何個分かで表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【知・技】 図を見て、比較量が基準量の何倍になるかを考え、倍を用いて表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・倍
15 本時	<ul style="list-style-type: none"> 乗法九九を総合的に活用して、ものの数の求め方を、かけ算を用いて解決できるように工夫して考え、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○チョコレートが全部で何個か考えよう。 ①チョコレートの数のいろいろな求め方を、図を基に考える。 ②他者の考えを読み取り、図や式に表す。 ③同じ数のまとまりに着目すればかけ算を用いて解決することができる。 ④同じ数のまとまりにちゅう目すると、かけ算をつかってもとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【思・判・表】 ものの数の求め方を、かけ算を用いて解決できるように工夫して考え、図などを使って説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ数のまとまり ・○の段を使って ・動かす ・引く
16 ・ 17	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○もんだいにとり組もう。 ①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 【知・技】 基本的な問題を解決することができる。 【思・判・表】 数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。 	

6 本時の展開		(本時をどうデザインするか)
	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入 7 分	1 問題を把握する。 	・問題文や図を見て、イメージをもたせる。
	2 課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> チョコレートがぜんぶで何か考え、せつ明しよう。 </div>	
展 開 28 分	3 見通しを持つ。 <答え、解決方法の見通し> ・同じ数のまとまりを探す ・分けて考える。 ・計算する。(足す・引く・掛ける)	【視点1：学習意欲の向上①】 導入時の場面において、学習する目的をもたせるために問題解決の手掛かりを予想させたり、ゴール問題を示したりする。
	4 自力解決をする。 5 学び合う。 (1) 終わった人同士で考えを伝え合う。 (2) 全体で学び合う。 ①子どもの考え ②出なかった方法を考える。 ◎なぜ、まとめたり、分けたり、動かしたりしたんだろう？ 6 学習のまとめをする。	・図を使って、自力解決する。 【視点2：言語活動の充実①】 学び合いの場面において、考えを整理するために、自分の考えを説明させる。 ・必ず相手に反応する。(納得・理解・疑問・付け足し等) 【視点2：言語活動の充実②】 学び合いの場面において、「同じ数のまとまり」が共通の考えであることに気づかせるために、様々な考えを聞き、話し合う。
	7 練習問題を解く。 	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> 同じ数のまとまりを見つけると、かけ算をつかってもとめることができる。 </div>
終 末 10 分	8 学習を振り返る。 (1) 評価問題を解く。 	【思・判・表】 ・ものの数の求め方を、かけ算を用いて解決できるように工夫して考え、図などを使って説明している。[発言・記述]
	(2) 学習感想を話す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ・同じ数のまとまりを見つけると、かけ算をつかえることが分かった。 ・〇〇さんの考えで、チョコレートを動かして6×4にしてもいいことが分かった。 </div>	
	(3) チャレンジ問題を解く。	


7 板書計画等

(学びの可視化をどうデザインするか)



C A

目指す授業像 (本学区では、共通してどんな授業を目指すのか)

視点1 「学習意欲の向上」	視点2 「言語活動の充実」
<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習課題がわかり、進んで学ぼうとしている。 ・授業でわかったことやできたことなどを振り返ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えと友達の考えの似ているところ・違うところを聞こうとしている。 ・伝えたいことを考え、言葉を選んだり話したりしている。
<p>【協議や助言の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分からないと答えた子が最後にできたと感じていたのがよかった。 ・見通しの中で算数的用語をたくさん使っていた。しかし、授業者が「かけ算」と意識づけたため、児童がかけ算以外は使ってはいけないと感じてしまった。 ・課題を解決するための見通しを引き出すことができていたが、考え方の見通しを持たせることが必要だった。 	<p>【協議や助言の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「9 + 15」を出した児童の考えを、他の児童の考えにつなげることができた。 ・で自分の学習状況を把握させ、その状況を全体の学びの場に生かしていた。 ・多様な考えが出てきた場面で、児童の考えを整理するのが教師である。出てきた数字を式や図に戻すことを全体で行うとよかった。
<p>【本単元を終えての成果 (授業者・学習者)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見通しの中で課題解決のための方法に固執してしまった部分があるので、方法だけでなく、答えや考えるための見通しをもたせることが大切だと感じた。 	<p>【本単元を終えての成果 (授業者・学習者)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが話し合いをするレベルが上がってきているので、授業者が子どもたちの考えをもっと整理し、子どもたちに戻してあげることが必要であると感じた。
<p>【授業者所感・今後の実践に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回授業を行い、最初は分からず暗い顔をしていた子が笑顔で終わることができたり、子どもたちが中心となり、楽しそうに学び合ったりしている姿がよかった。授業をしている側も楽しかった。 ・自身の課題も明確になったので、今回助言いただいたことをこれからの授業に生かし、子どもたちの力をどんどんつけていきたい。 	

7 学び合い構想図

問題 はこの中のチョコレートはぜんぶで何こありますか。
いろいろなもとめ方を考えましょう。

課題 チョコレートは全部で何か考え、説明しよう。

学び合い

〔児童の考え〕

<わかる人>

同じ数のまとまりをとらえ、○が▲こあると図で表したり、式や言葉に表したりして説明することができる。

<途中、わからない人>

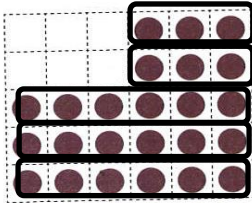
・どうやって同じ数のまとまりにすればよいか分からない。
・同じ数のまとまりにした後にどう計算して図に表せばよいか分からない。



$$3 \times 3 = 9$$

$$5 \times 3 = 15$$

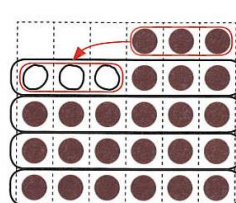
$$9 + 15 = 24$$



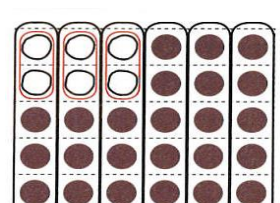
$$3 \times 2 = 6$$

$$6 \times 3 = 18$$

$$6 + 18 = 24$$



$$6 \times 4 = 24$$



$$5 \times 6 = 30$$

$$2 \times 3 = 6$$

$$30 - 6 = 24$$

〔まとめにつなげる発問〕

T: なぜ、まとめたり、分けたり、動かしたりしたのだろう？

C: 同じ数のまとまりを探すため。

C: かけ算で計算したいから。

〔使わせたい言葉〕

- ・同じ数のまとまり
- ・○のだんを使って
- ・いくつ分 ・分ける
- ・動かす ・引く

まとめ 同じ数のまとまりを見つけると計算をつかってもとめることができる。